

サウンドスタイリング雑誌作成プロジェクト
ー写真が鳴らす音ー

活動概要

本活動では、見ること・掴むことのできない生活音を記録する媒体として写真を用い、沖縄県恩納村で発見した生活音の実態を集めた。その写真に言葉を添え、その土地に暮らす人々の生活音を顕わすメディアを作成した。

名称：サウンドスタイリング雑誌作成プロジェクト ー写真が鳴らす音ー

日程：2014年8月21日～26日

場所：沖縄県（那覇市恩納村を中心とした県内）

主旨：

申請者浦上の研究目的は、生活音による生活環境デザイン手法「サウンドスタイリング」を提案し、その実践パターンを伝えるための雑誌を作成することにある。サウンドスタイリングとは、日常のあらゆるシーンで鳴る自身の音にこだわりを持ち、それらをファッションツールとして活用することにより自らの生活をデザインする行為である。本研究における目下の課題は、これら生活音を扱うエピソードを雑誌にまとめるために、目に見えない音を、手に取れる媒体に落とし込む手法を洗練させることである。

本活動では、見ること・掴むことのできない生活音を記録し伝える媒体の妥当性および相性を知るべく、フォトグラファー渡辺理美を交え、ある村での暮らしの音を写真で伝えるための試みをした。フォトグラファーがシャッターを切るときに掴んだ生活音及び、生活音の研究者が沖縄で発見した音体験を集め、両者の対話により生活音を伝えるメディアを洗練させるプロジェクトである。

成果報告

本活動は、(1)体験 (2)観察・撮影 (3)対話 (4)作成 の4つのフェーズに分かれる。

(1)体験

とある土地の生活音を知るには、できる限り観光者ではなく、住人に近い暮らしをする必要がある。今回は、活動の中心地である沖縄県恩納村での暮らしを知るべく、現地の知人宅に宿泊しながら、生活リズム、食事、移動の習慣の体験を行った。訪問者としての新鮮さと、日ごとに増す「慣れ」の感覚を身に刻んだ。

(2) 記録・撮影

体験をしつつ、フォトグラファーは撮影を、研究者は録音/記録を行った。日々を暮らす中での違和感や、音に対する発見を観察し記録をした。

(3) 対話

互いの体験を共有するべく、数回の対話を行った。現時点では、滞在中の車内、及び活動終了後学校にて行った。この過程により、数日間同じ時間を過ごした 2 人の体験の違いや類似点の発見・発掘が叶った。また、撮影した写真および、記録した音体験から、作品にする対象を選定した。

(4) 作成

選定した写真には言葉を、選定した音体験には、それに見合う写真をつけ、作品として中和させていく過程である。構成は、写真、タイトル、小エッセイとなる。図1にサンプルを載せる。

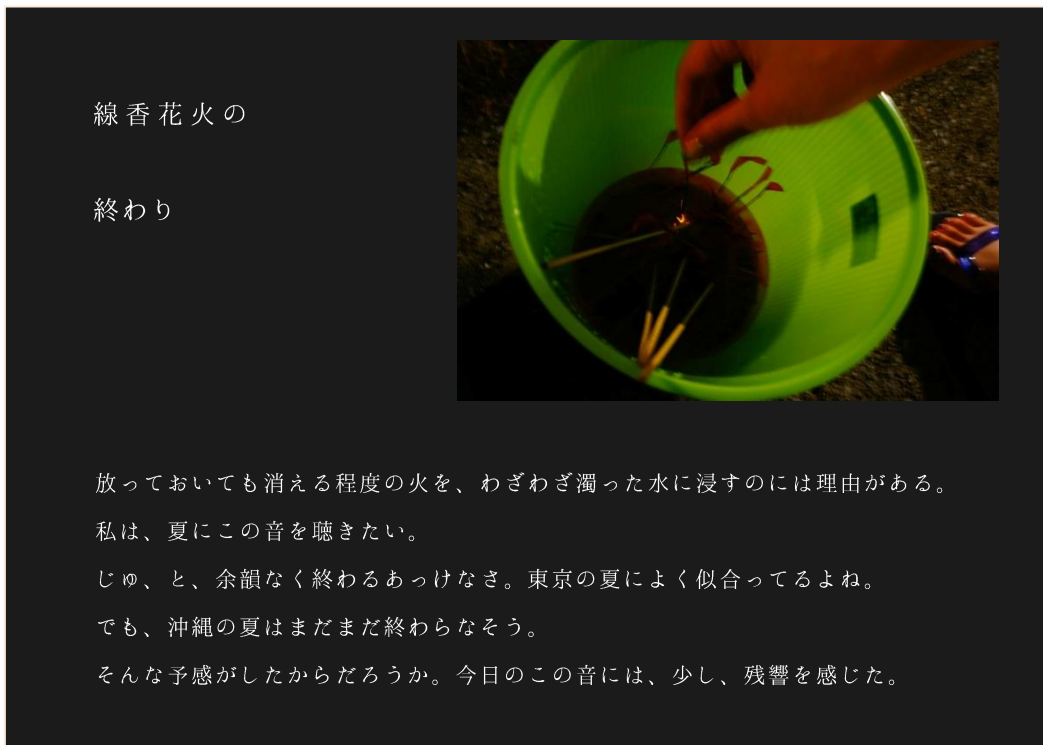


図1 サンプル

公開に向け、公開媒体の選定、作品数の追加が必要となるため、2014年10月末まで(3)(4)を繰り返す。年度内の公開を目指す。